

Vol.01

- 夏山シーズン到来
- 高齢化と移動支援
- 染谷理事長
県民功労者表彰

おで通

おでしえ通信

July <7月・文月>
発行日 / 2025.07.10

編集人/おでしえ広報部
海老名市門沢橋2-11-18
Mail.hellos86@outlook.jp
TEL. 090-1733-1030

Mt. Fuji

Have you ever been to Mt. Fuji?

富士山 山開き 7月1日 吉田ルート



吉田ルートの開山期間は7月1日から9月10日まで



吉田ルート以外の開山期間は
7月10日から9月10日まで

富士山に登るには 4つの登山口と登山ルート

1. 吉田ルート(黄色)の登山口:富士スバルライン五合目
2. 須走ルート(赤色)の登山口:須走口五合目
3. 御殿場ルート(緑色)の登山口:御殿場口新五合目
4. 富士宮ルート(青色)の登山口:富士宮口五合目

- 入山料 4,000円 (1人1回)
- 入山時間 3:00~14:00 (全ての登山者)
14:00~ 3:00 (山小屋宿泊者のみ)

登山口までのアクセス

富士山の登山ルートは4つあり、それぞれ五合目付近が登山口となっています。各登山口まで、バスやタクシー、マイカーで行くことができます。ただし下記の期間中は、マイカー規制が執行されます。シャトルバスは麓の駐車場から乗り換え、登山口まで運行されています。

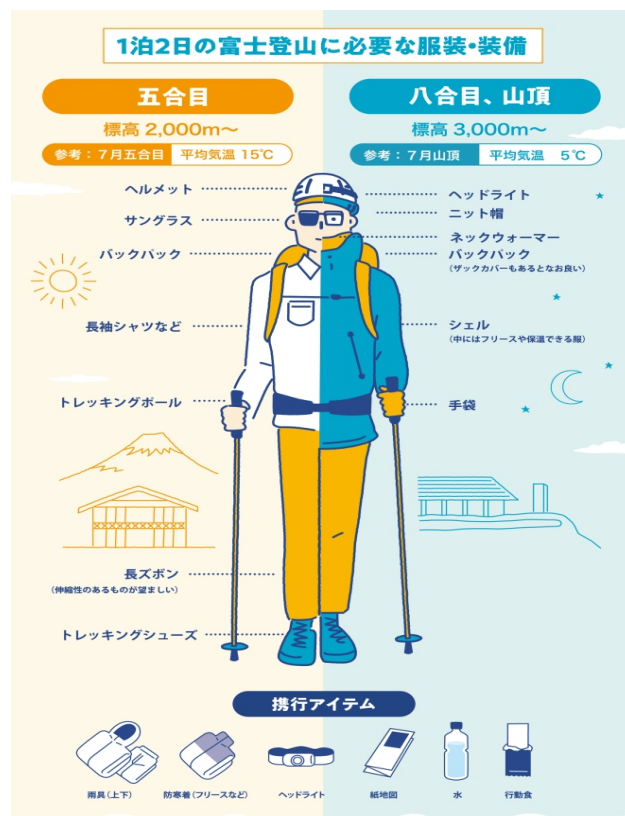
【各登山口のマイカー規制】

- 吉田ルート：富士スバルライン五合目
7月4日(金) 18時～9月10日(水) 18時<富士山パーキング>
- 須走ルート：須走口五合目
7月10日(木) 9時～9月10日(水) 18時<須走多用途広場>
- 御殿場ルート：御殿場口新五合目
※マイカー規制はありません
- 富士宮ルート：富士宮口五合目
7月10日(木) 9時～9月10日(水) 18時<水ヶ塚駐車場>

富士登山のルールとマナー

富士山と山麓の大部分は、富士箱根伊豆国立公園(昭和11年)、世界文化遺産(平成25年)、特別名勝(昭和27年)及び史跡(平成23年)に指定されています。
また、溶岩洞穴や溶岩樹型などの天然記念物や多くの史跡もあります。このような貴重な自然や歴史的資源を大切にすることが重要です。
特に、五合目より上は国立公園特別保護地区に指定され、自然保護のため厳しい規制がかけられています。

登山に必要な装備



御殿場口新五合目



楽^{らく}富士

登山をしなくても富士山を満喫

東名高速道路・御殿場ICから富士山スカイラインで御殿場口新五合目駐車場へ、またはJR御殿場線「御殿場駅」から登山バス利用で「御殿場口新五合目」下車。マイカー規制がなく、シーズン中でも五合目まで車で登ることができます。標高およそ1450m、駐車場も500台完備。富士山の中腹にある双子山越しに、宝永山と山頂を仰ぎ見ることができます。雄大な眺めと透き通った空気、野鳥のさえずりによる癒しを求めて、富士登山のほかハイキングやドライブなどでも多くの観光客が訪れます。登山道の入口付近には24時間利用可能な公衆トイレ、観光案内所、売店があり、夏は避暑地に行かなくても涼しさを味わうことができます。

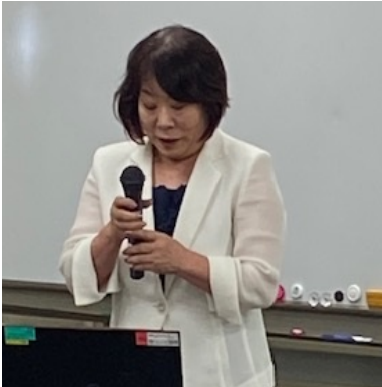
住民がつくる地域コミュニティと外出支援の取組み事例

地域のくらしの足を考えるセミナー

●日時/6月25日(水)14:00～15:30 ●会場/海老名市役所7F

少子高齢化の進行による独居高齢者の増加、自治会加入者の減少や人間関係の希薄化など社会的課題に対し、地域コミュニティ活動事例や、海老名市の高齢化の推移と外出・移動支援の取組みを知るセミナーが開催されました。

講師の河崎さんは「地域のくらしの足を考える」移動サービスの実情と課題など全国のセミナーやシンポジウムを通して、高齢者の外出を促進することの意義、地域社会への効用など移動支援の法人設立から運営管理・指導を推進されています。



NPO法人
全国移動サービスネットワーク
副理事長の河崎民子さん



会場は熱心に聞き入る受講者

高齢化社会への取組み

安心して暮らせるまちづくりを目指して



認知症サポーター養成講座

●日時/ 7月2日(水)10:30～12:00
●会場/門沢橋コミセン

65歳以上の高齢者のうち、4人にひとりが認知症、または認知症予備軍と言われている昨今。海老名市では認知症になっても安心して暮らせるようにと、正しい理解を深める「認知症サポーター養成講座」が開催されました。

当日は、南高齢者施設の講師の講義と寸劇を交えて、認知症の症状や付き合い方などがレクチャーされました。受講者には認知症の家族や患者を支援し、病気の早期発見にも努める”認知症サポーター”の証「オレンジリング」が贈呈されました。





神奈川県庁で記念撮影



左から黒岩知事、ご本人、ご主人

神奈川県は、公共の福祉に貢献した方々をたたえる「県民功労者表彰」の受賞者を発表しました。78回目となる今回は、団体や地域の活動などを通じて社会福祉、保健衛生、産業・経済、教育・文化、生活環境、ボランティア活動の各分野で活躍された方々、40名・1団体が6月17日に黒岩知事より表彰が行われました。

海老名市からは、NPO法人おでしえの染谷満里子理事長が社会福祉分野での功績により受賞されました。染谷さんは長年、海老名市の民生委員・児童委員として、地域の社会福祉の支援活動がこの度の栄えある受賞となりました。地域の皆さまからも温かい言葉が寄せられています。



ヨーロッパの福祉大国であるデンマークやスウェーデンには、いわゆる寝たきり老人はいないと、どの福祉関係の本にも書かれています。他の国ではどうなのかと思い、学会の招請講演で来日したイギリス、アメリカ、オーストラリアの医師をつかまえて聞くと、「自分の国でも寝たきり老人はほとんどいない」とのことでした。

一方、我が国のいわゆる老人病院には、一言も話せない、胃ろう(口を介さず、胃に栄養剤を直接入れるため、腹部に空けた穴)が作られた寝たきりの老人がたくさんいます。不思議でした。日本の医療水準は決して低くありません。むしろ優れているといっても良いくらいです。

「なぜ、外国には寝たきり老人はいないのか？」
答えはスウェーデンで見つかりました。今から5年前になりますが、認知症専門医にストックホルム近郊の病院や老人介護施設を見学させていただきました。予想通り、寝たきり老人は1人もいませんでした。胃ろうの患者もいませんでした。

その理由は、高齢あるいは、がんなどで終末期を迎えたら、口から食べられなくなるのは当たり前で、胃ろうや点滴などの人工栄養で延命を図ることは非倫理的であると、国民みんなが認識しているからでした。逆に、そんなことをするのは老人虐待という考えさえあるそうです。

欧米に寝たきり老人はいない 増補版 -
コロナ時代の高齢者終末期医療
(単行本) ¥1,760

◆宮本顕二(みやもと・けんじ)

北海道中央労災病院長、北海道名誉教授
1976年北海道大卒、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会理事長、専門は呼吸器内科、リハビリテーション科
「高齢者の終末期医療を考える会」事務局

欧米では、高齢で口から食べられなくなったからといって胃ろうは作りませんし点滴もしません。肺炎を起こしても抗生剤の注射もせず、内服投与のみです。したがって両手を拘束する必要もありません。つまり、多くの患者さんは、寝たきりになる前に亡くなっていました。寝たきり老人がいけないのは当然でした。欧米が良いのか、日本が良いのかはわかりません。しかし高齢の認知症患者を目の前にすると、人間の尊厳について考えざるを得ません。(宮本顕二)



自分で決める人生最後の医療

欧米に寝たきり老人はいない